

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	クマモトリバース
資金分配団体名:	一般財団法人日本未来創造公益資本財団
実行団体名:	一般社団法人BRIDGE KUMAMOTO
実施時期:	2021年4月～2022年2月
事業対象地域:	全国（特定地域：熊本県）
事業対象者:	熊本豪雨により被害を受けた地域の活動団体や地域住民、災害対応に関わる方々。

Version 3.2

日付: 2022年3月14日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>1) 熊本豪雨で活動した民間ボランティアや社協の取組みなどを取材し、動画や記事にし、冊子とwebサイトに纏め誰でも知ることができる環境を構築する。</p> <p>これまでの活動から業種を問わず様々な企業や団体との繋がりを活かしたハイパーリンク型の災害復興支援を構築する。</p> <p>2) コロナの状況次第で以下を順次行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・球磨川での川遊びなどのアクティビティとセットにしたボランティアツアーを企画し、現地にお金落ちる仕組みを構築する。・企業の研修活動としてボランティア活動に取り組みめるよう構築する。 <p>企画力や実行力、チームマネジメント、現場の判断力、課題解決力などをボランティアを通して学び考える場を提供する。</p> <p>3) 冊子完成後、関東でお披露目イベントを開催。撮影した写真や動画なども展示する展示会のようなイベントを想定。</p> <p>写真はパネル作成し、今後も写真だけ輸送すれば写真展が開催できるようなものにする。</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>【課題】</p> <p>①防災や減災に関する本や、報告書のような冊子はたくさんあるが、コロナ禍で現地に行けない人が支援したいときに何が出来るか分からない、現地がどんな状況だったか知らない、自分以外に他の人がどんなことを感じていたのか分からない、という状態だった。</p> <p>②発災後、現地がどのような状況なのかを知らない分からない。また被災地というイメージだけで、元々の地域の魅力を知ってもらうことが難しい状態だった。</p> <p>【仮説】</p> <p>①実際にどんな支援をしたらいいかは、現地在イメージできないからで、現地取材及びアンケート調査を行い、それを公開することで解決するのではないか。</p> <p>②地元の魅力の1つであるアクティビティを体験すること、また一緒に球磨川の魅力を取り戻すため川沿いの災害ごみを回収するお手伝いをセットにすることで、遊びにいきたい人やボランティアをしたい人など、どちらかに興味がある人が現地に足を運ぶキッカケになり解決するのではないか。</p> <p>【実証と結果】</p> <p>①事業概要欄の1) 3) 「大切な人が被災したときに、自分にできることが見つかる」本、写真展、webサイトの作成を実施。</p> <p>今までは災害に興味がない人も手に取れるようなポップなデザインで、支援したい人向けの本として5000部作成し配布。</p> <p>実際に現地で活動した221人の方にアンケートを実施し、ボランティアとして活動する方々の実態も本に掲載し、またインフォグラフィックの動画としてアンケート結果すべてをwebサイトに掲載。</p> <p>当初は本とwebサイトの作成のみを予定していたが、カメラマンたちの協力もあり、当時の被災状況の写真を活用して冊子のお披露目と合わせて写真展を開催できた。これまでの多くの展示は、被災地の悲惨な状況を見るだけのものが多く、危機感を募らせることはできるが、「自分にもできることがあるんだ」とポジティブな気持ちで帰ってもらうことは難しかった。今回の写真展は、自身のクリエイティビティを発散し、自分のできることに会ってもらおう場とする工夫をした。そのために、写真展では下記3つのステップを踏める部屋を用意。</p> <p>1.想像する部屋：「もしわたしの家が被災したら」を想像し、「自分だったらこんなことに困るかもしれない」と自分を主語にした気づきを得る部屋</p> <p>2.自分にできることのヒントが見つかる部屋：自身の好きなことや得意なことを深ぼりする問いカードやアイデアを発散するためのBRIDGEの既存の取り組み紹介、ボランティアインタビューを見ることで、「わたしにできること」のヒントに出会う部屋</p> <p>3.シェアする部屋：「わたしにできること」をシェアする。小さな一歩目として意思表示をする部屋</p> <p>この3ステップにより、被災者の方からも勇気がもらえた、という感想や、自分にできることをやっています、というポジティブな感想を多くいただいた。</p> <p>本のリリース直後からお問合せが多数あり、配布に協力くださる企業や団体から37件の申し込みをいただき、1ヶ月以内に約3,200部を配布実施。被災者向け、防災や減災など備えるための情報は見たことある方が多く、支援するための情報に興味がある方が多いことが伺える。</p> <p>また、写真パネルは今後写真展を開催したい企業や団体に貸し出す予定だが、その際のルールや仕様を設計しておかないと、こちらが意図しない使い方や展示方をされる可能性があると感じた。今後については運用設計が必要。</p> <p>②事業概要欄の2) 球磨川アクティビティ&ボランティアツアートライアル企画実施。</p> <p>当初は夏休み時期にツアー、9月に企業研修を開催する予定だったがコロナの影響により、今期はトライアルツアーとして10月に2企業に実施し、体験後の感想から満足度は高かったものの内容と費用の設計が難しいと感じた。</p> <p>コロナの影響による延期は想定していたが予想よりも長くかかってしまったため、本件で使用する予定だった費用を3)の写真展で活用させて頂いた。</p> <p>来年度のアクティビティ&ボランティアツアーのパッケージ化には他のアクティビティ企業や行政も巻き込み一緒に構築する必要性も感じた。</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態 (アウトプット)	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
その他	連携の不足	冊子や動画、webサイトで、現地の状況を把握する人が増える	動画やサイトの閲覧者数、冊子配布数	冊子配布：4000冊	冊子配布：約3200冊	追加で欲しい、何かしら連携したいなどお問合せは多くすべての要望にお応えするとおそらく5000部すぐになくなるほど、関心の高さを伺える状況。今後の冊子の運用方、また追加制作時の価格設定や制作方法について検討中。
その他	連携の不足	写真展を通して、水害のことを自分ごとにして考え「わたしにできること」に出会い、意思表示する人が増える	来場者数	100人	約150人	コロナ禍のため事前告知はあまりできなかったが、3日間で約150名が来場したのは関心の高さを伺えた。被災当事者の1人が来場された際、写真展に入る前のアウトプット用のチェキ撮影を拒否されたが、後ほど「悲しい気持ちになると思っていたけど前向きな気持ちになれたから写真を撮って欲しい」と言われ、意図していたことが伝わったことを感じられた。
その他	連携の不足	レジャーを行う団体がアクティビティ×ボランティアを営業ツールの1つとして行なっている	ツアー参加者数、ボランティア参加者数	100人	約40人	参加する側としては球磨川の魅力を体感し、楽しみながらボランティア経験ができるため継続して行うのは地元の飲食店との連携などいろんなパターンの可能性はありそうだが、レジャー団体側の負担になる可能性もあるため意見交換しつつ検討する。
その他	連携の不足	企業や団体が被災地ボランティア活動に参加している	参加団体数	10社	2社	コロナの影響によりアクティビティができる時期を逃してしまったため、参加団体が2社に留まった。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p>1) 『withコロナ』対応の事例として、これからの災害対応のモデルケースの概要ができています。</p> <p>2) 被災地に訪れる人が増え、災害を自分ごととして考えられる人が増える。 企業や団体のCSR活動や研修の一環として、被災地へのボランティア活動が当たり前となっている。 災害で命を守る行動が取れる人、発災後に自ら行動できる人が増える。</p>
考察等	<p>1) コロナの状況が刻々と変化していったため、『withコロナ』対応事例ではなく、支援したい人がどんなことができるかを考え、見つけるためのヒントが詰まった内容に変更した。コロナと災害が初めて重なった熊本豪雨に対応してきた人たち、想いを寄せた人たちのことがいたこと1つの記録として残ることで、万が一、今後人類が初めて対応するような事態に陥った時の希望の1冊となると感じている。</p> <p>2) コロナ禍により現地に行くことが未だに難しい状況でもあり、企業や団体のCSR活動や研修の一環として活用することが難しい状況である。ワクチン摂取、また企業側の予算などの状況によりCSR活動や研修としてできる企業がいるのか未知数ではあるが、個人ツアーとして設計できる可能性もあるため今後のコロナの状況を加味して検討が必要である。</p> <p>また、本や写真展を通して、自分にできることを考える人は一定数増えたものと考察するが、災害で自分と大切な人を守る人を増やすには、日常的な落とし込みや継続して伝えていく必要があると考える。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
関連各所へ企画説明、協力正式依頼	計画通り	想定通り、協力頂きたい方々に依頼し実施できた。
BRIDGEKUMAMOTO基金の助成先団体（約40団体）に趣旨説明とヒアリング実施、順次動画撮影	ほぼ計画通り	BRIDGE KUMAMOTO基金助成団体の中からこちらで団体や個人を選定し、取材させていただくことに変更した。
関係各所と定期的な打合せ実施	計画通り	本、写真展、アクティビティ&ボランティアツアーそれぞれの関連各所と定期的実施。
企業・団体への研修構築し順次展開	ほぼ計画通り	コロナの影響により、想定していた団体数はできなかったが、実施した2社にヒアリングを実施し今後に繋がる意見やアドバイスを頂いた。可能性としては需要があり、企業としても活用したい希望はあるため、来年度に向けて検討予定。
GWでのボランティア企画、実施	中止	コロナの影響により、GWでの実施はできなかったため10月に実施した。
発災から1年の7月3-4日（土日）で、ボランティアツアー企画	中止	コロナの影響により、ボランティアツアーの企画はできなかったが、被災地でのイベントにbridge kumamotoとして出展した。
夏休みでのボランティア企画、実施	遅延あり	コロナの影響により、夏休みでの実施はできなかったため10月に実施した。
動画撮影後、編集・アップデート作業	ほぼ計画通り	どんな動画が効果的なのか検討する時間を大切にしたいため当初想定していた被災地で活動する団体の動画ではなく、来年度に向けた販促用の球磨川アクティビティ&ボランティアツアー動画を作成した。動画を観てもらうことで企業や団体に呼びかけていく予定。
関係者ヒアリング実施後、編集・サイトへのアップデート作業	ほぼ計画通り	本の概要を決めるまでに時間を費やした。これまでの防災本やボランティア本とは異なる、若い人やこれまで災害などにあまり興味を持たなかったような世代からも気になる1冊として手にとっていただく本になった。どこで入手できるのかなどのお問合せを全国から多数頂く、これらの反響から災害や防災へのキッカケ作りになっていると感じる。
イベント会場調整、打合せ	計画通り	球磨川アクティビティ&ボランティアツアーが予定通り開催できなかったこともあり、県外の方にも熊本豪雨のことを知っていただく機会を別で作りたく9月に検討した関東での写真展。伝えたいことは「大切な人が被災したときに、自分にできることが見つかる写真展」にしたいという趣旨は決まっていたので、会場の調整や打ち合わせは順調に進んだ。
写真パネル作成、打合せ	計画通り	写真パネルの選定に時間がかかったが、カメラマンたちの協力により当時の写真を入手することができた。
動画、サイト、冊子完成	遅延あり	コロナの影響で全体的に遅延したが2/1に冊子完成、2月中にサイトと関連動画完成。
冊子配布	ほぼ計画通り	1月に配布予定だったが、2月に配布。お問合せ多数のため急遽応募フォームを作るなどの対応を実施し、企画や趣旨に賛同してくれるところを募って配布実施。
冊子お披露目、写真展開催	計画通り	計画通り実施。一軒家で行った写真展は、自分の家が被災したことをイメージしやすく、また問いを与えられることで自分の考えや個性を知るキッカケとなり、自分ができることをアウトプットするところまでを行った。これにより、自分ごととして捉えやすい、面白い、など感想を多数頂いた。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<ul style="list-style-type: none"> ・本の編集長のインスタフォロワーが7,000人おり、それを見て写真展に訪れる方が多く想定以上の来場者数に繋がった。 ・本が欲しいという問い合わせを多数頂き、配布ご協力頂ける企業や団体を募集した。（30団体募集に対して37団体から申込あり） ・2/20被災地、芦北での復興イベントで写真パネル貸出しを実施した。 ・株式会社KOKUAの「LIFE GIFT」と冊子のコラボキャンペーン実施した。（プレスリリース3/15に実施） ・BOSAI POINT（https://bosaipoint.com/lp）などと連携できないか検討中。 ・3/26 防災イベントにて登壇予定（https://bousai220326-setagayaport.peatix.com）
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>【課題】</p> <p>①防災や減災に関する本や、報告書のような冊子はたくさんあるが、コロナ禍で現地に行けない人が支援したいときに何ができるかわからない、現地がどんな状況だったかわからない、自分以外に他の人がどんなことを感じていたのかわからない、という状態だった。</p> <p>②発災後、現地がどのような状況なのかを知らないわからない。また被災地というイメージだけで、元々の地域の魅力を知ってもらうことが難しい状態だった。</p> <p>【対象者からの感想などにより感じられる変化】</p> <p>①様々な支援の仕方があることを知る人が増えた。</p> <p>現地に行くだけでなく、自分にできることを考える人、特別なことではなく日常的に行っていることが災害時に活かせるものになるという気づきがある人がいたことを、感想やSNS等で発信されている内容から伺えた。</p> <p>②球磨川の魅力を知り、また来たいと思って頂ける場所の1つになった。</p> <p>現地に行きたいけど行けなかった行っていいの、という思いがある人にとってはアクティビティを目的に気軽に足を運ぶことができた。家族や友達とも気軽に参加でき、一緒に球磨川をきれいにするという意義のあることにも参加ができて嬉しかったなどの感想を頂き、アクティビティを通して、被災地の現状や当時のことを知るなど、心に残る場所の1つになることを感じた。</p> <p>【次の活動】</p> <p>①無料配布の5000部がなくなり、有料となった場合にどれくらいの需要があるのかを調査し、今後の運用方や発信方を検討する。個人、団体、企業などそれぞれが得意なこと、できることを考え、アプトプットできる場があると、それぞれの新たな得意なことできることも見えたり、連携が生まれたりするのではないだろうか。</p> <p>②来年度の球磨川アクティビティ&ボランティアツアーや、企業研修でのパッケージ化するための運用設計や価格設計。</p>
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
ボランティアインフォ	写真展の現地対応を依頼。関東での開催だったため自分たちでは準備できないものを適宜準備頂き、写真展が滞りなく開催できるよう対応実施。
被災地域で活動した団体	本作成にあたり、当時の状況取材し、本に掲載。
県内外のクリエイター	本作成にあたり、発災前後についての手記や発災後の活動について取材し本に掲載。
熊本市社会福祉協議会	人吉市の社協、人吉市役所、熊村教育委員会委員長に手記の依頼し、本に掲載。
株式会社KOKUA	本を活用したコラボ企画を計画。今年度中に実施予定。
チームやまびこ	被災地である芦北での復興イベントの際、写真パネルを活用した写真展開催したいとのことで貸出し実施。
morning after cutting my hair	写真展開催が決まり、イベント企画や運用を依頼し、2/4-6で実施。
五ヶ瀬自然学校	五ヶ瀬自然学校が開催する月1回の勉強会に参加。お互いの情報を共有実施。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	10,103,240	10,066,551	99.6%
	管理的経費	0	0	#DIV/0!
合計		10,103,240	10,066,551	99.6%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	<ul style="list-style-type: none"> ・3/11 ハフポスト（Twitterフォロワ37万人）に掲載： https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_62286cc3e4b0a7d5b8bd88e8 ・3/11 熊本放送(RKK)ゲツキンにてTV放送
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	<ul style="list-style-type: none"> 1) 大切な人が被災したときに、自分にできることが見つかる本(5000部) 2) 大切な人が被災したときに、自分にできることが見つかる写真展 3) 大切な人が被災したときに、自分にできることが見つかるサイト https://howtohelp.jp 4) 現地でボランティア活動した221名にご協力いただいたアンケート動画（3のサイト内にあり） 5) 球磨川アクティビティ&ボランティア販促動画 https://youtu.be/EuiSP5z4ABU 6) クマモトリバース企業向け研修プラン企画書 7) バーチャル写真展 https://my.matterport.com/show/?m=Ap49Mso8Gyn
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	<ul style="list-style-type: none"> 1) 大切な人が被災したときに、自分にできることが見つかる本 2) 大切な人が被災したときに、自分にできることが見つかる写真展のプレスリリース 3) 大切な人が被災したときに、自分にできることが見つかるサイト 4) 現地でボランティア活動した221名にご協力いただいたアンケート動画 5) 球磨川アクティビティ&ボランティア販促動画 6) クマモトリバース企業向け研修プラン企画書
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更があり報告済	定款と役員変更に関する資料を再提出済
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	○ 外部監査	弊社担当税理士による会計監査を実施予定
	内部監査	
	実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	